

令和3年度 小学校教員向け環境教育研修会 実施報告
「やってみよう！環境学習プログラム」
第2回「多摩川いきもの調査隊」(テーマ：水)

- 実施日時 令和3年8月18日(水)10時00分から12時00分まで
- 受講者数 8名(教員8名)
- 実施方法 Zoomを使用したオンライン開催
(配信場所：福生市立福生第五小学校)

□実施内容

1. 事務連絡・開講挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明

2. 講師・ゲストティーチャーからの講義

(講師：NPO法人環境学習研究会理事長 谷村春樹氏

ゲストティーチャー：NPO法人自然環境アカデミー 野村亮氏)

【動画による疑似体験】



【現地の様子を動画で紹介】

事前及び当日撮影した動画を用いて現地の川の様子や水生昆虫を紹介



3. 参加者同士でのグループワーク

(講師：NPO法人環境学習研究会理事長 谷村春樹氏

ゲストティーチャー：NPO法人自然環境アカデミー 野村亮氏)

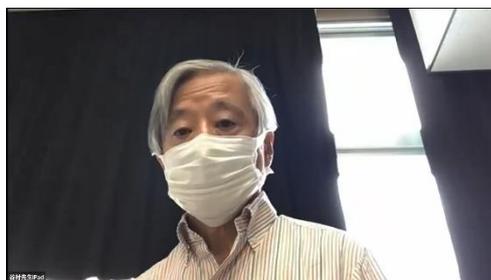
テーマ：子どもたちに自然の大切さを伝えるためにどのような授業を実施しているか、また、今後実施してみたいか

(授業実施や抱えている課題の例)

- ・学校の近くの環境(近くの山、川)を利用する。他には動物園のプログラムや外部講師を活用する。子どもが興味を持った時に答えを示せる方が良いと思うが、それ

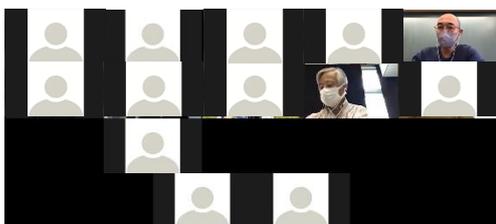
に対応できる知識を身に着けるのは難しいと感じたし、どの程度知識が必要なのか疑問になった。

- ・自然環境は学校によって異なる。しかし都会の学校でも必ず自然はあるのでまずは地域を見て観察を。総合的な学習の時間ではまず子どもたちに考えさせることが重要。環境学習を教科間で連携することが難しいが例えば理科専科と担任で打合せをしながら進める、年間指導計画を通じて計画する、理科の授業にて自分たちの生活と結びつけるなどできると良いのでは。



（実施例や課題に対する講師からのアドバイス）

- ・先生の知識量については知っているに越したことはないが、知っていると教えてしまう場合が多い。外部講師でも同様。一緒に調べる姿勢を見せることも必要。
 - ・現在ではリモートで講師を招くこともできるので、知識が必要な場面ではそうしたツールなども活用することもひとつの手では。
 - ・学校のビオトープがほったらかしの状態。活用するに当たっての注意事項（どういった生き物を飼育するか）を伺いたい。
- 学校の自然も地域の自然とつながっているのであまり地域にそぐわないものを入れる（飼育する）のは好ましくない。例えば近くにいるものを誘導するのはどうか。どこかから連れてくるのではなく、環境を作り自然に来るようにする。先生だけでやると担当した先生が異動すると活動が止まってしまうので子どもたち自身で管理できるように仕向けると継続する。
- ・低学年の生活科で環境学習を実施したがやって終わりになってしまった。どうすればよいか。
- 低学年はまず楽しいと思ってもらうことが重要。無理に学習につなげる必要はない。中学年以降になれば理科の学習ともつながるのでそこからステップアップしても良いのでは。



令和3年度 小学校教員向け環境教育研修会
「やってみよう」環境学習プログラムにもご参加ください。
オンライン実施（教員の方向けですが、研修や教育に関心ある自治体職員、教員研修の大学生の方でも参加いただけます）

9月27日（月）15:30～17:30
・ESD／「ポスト・コロナ時代における環境学習の新たなチャレンジ：自然界の〈ハーモニー原則〉のレッスン」
講師：聖心女子大学教育学部教授 永田 佳之先生

10月23日（土）15:00～17:00
・水素／「高純度水素と水素エネルギー」
講師：東京理科大学 大学院新学域環境科学研究所環境応用化学場
奥野 智也 教授（水素エネルギー社会情報推進研究センター）

本日はご参加いただき、誠にありがとうございました。
グループページ：コミュニティ（公開） 東京環境株式会社

後ほど、アンケートをメールでお送りします。ご協力お願いします。

4. 事務連絡

事務局からアンケートのご案内、解散